

こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< No.370 2018.7.6 連絡先 402-1622 >

共産党議員の一般質問-6月議会も5人全員が質問に立ちました

学校司書 全校配置を

中村朝人議員

中村市議は、市当局も効果があると認めている学校司書が市内全域で1中学校区を担当している1人しかいない状況を示し、学校司書を増やして全校に配置するよう求めました。教育長は「司書教諭が中心となり、学校司書やボランティアと協力しながら運営することが重要」としました。

中村市議は、虐待された子どもたちを受け入れるなどしている和歌山市の児童養護施設が施設老朽化による建て替えとともに、現在の公設民営から民設民営に切り替わることについて「社会的養護における公的責任が、土地を無償で貸与するとはいえ、施設も管理などが法人にゆだねられることで後退するのではないかと」ただしました。福祉局長は「民間活力を生かすことができる」「施設の環境改善を自主的に行うことで効率的な社会福祉事業の実施を図る」と答弁しました。

駐車場管理など提案

-市の各種事業ただす

姫田高宏議員

姫田市議は、市のスカイタウンつつじヶ丘がたとえ完売しても大赤字になってしまふなどこれまで市の行った各種事業をふりかえりつつ、つつじヶ丘テニスコートの駐車場不足や和歌の浦アートキューブの1階部分のテナント化などをただしました。副市長は、ひめだ市議が提案したテニスコートとソフトボール場の駐車場の一体管理について「両施設の駐車場不足を運用面で解消するような管理が可能となる」と答弁。テナント化について産業交流局長は「利用者への影響を検討する必要がある」としました。

市民図書館の新設移転に伴う跡地利用について市長は「生涯学習施設としての活用案に加え、大学用地としての活用案も検討している」と答弁。現市民会館から新市民会館の移行に伴う市民の利用について局長は「切れ目なくご利用いただける」と約束しました。

みち子のひとりごと 平和ツアー

週末に東京へ行ってきました。明治大学地内にあり、戦前、旧陸軍によって開設され、秘密兵器や資料を開発研究していた「登戸研究所」資料館、お茶の水にあり戦時性暴力・慰安婦問題の加害と被害を考える「女たちの戦争と平和資料館」、当時江戸を守るための要塞として整備された横須賀沖合の「猿島」です。

資料館はどちらも、"残しておかなくては"という強い意志のある人々がいてこそのものだと思いました。"猿島"は東京湾の入り口にあり東京(江戸)を守るために整備され、同じように大阪を守るために要塞となった「友が島」と似ています。どちら

の元になったと...どちらが元祖かはわかりませんが、「猿島」では戦跡が保存されているとともに、砂浜ではバーベキューができ、若者のグループや家族連れが楽しんでいました。



市内は電車での移動。乗り換えも頻繁で、そのたびに階段の上り下り。都会は健康的?

こんにちは

井本ゆい子です



以前ここで紹介した、この史代さん原作のアニメ映画「この世界の片隅に」が、こんどは実写版ドラマで放送されます。TBS7月15日夜9時からです。

同じく、この史代さん原作の「夕凧の街桜の国」も実写版で、NHK総合8月6日夜7時30分から放送されます。

アニメ映画をみた人からは、空襲や原爆のシーンの、悲惨な描写が少なく、物足りないという感想も聞か

れますが、そのあたりは原作者の意図だそうで、戦時中も今と同じ日常生活があり、そのすぐそばにあった戦争を感じてほしいというようなことを言っていました。

しかし、実写ドラマでそのテーマがうまく表現されるかどうか、特にTBSのドラマのほうは、美男美女ぞろいの配役で、テーマも愛のほうに傾いてしまうかもです。

カジノ検証すらない

森下佐知子議員

森下市議は、和歌山マリーナシティへのカジノ誘致について経済効果を強調する市長に対し、治安の保持のコストやギャンブル依存症対策にかかわる経済的損失を検証すらされていないと指摘。「やっと依存症対策基本法が成立の見通しとなり、遅れていた依存症対策が本格化すると思いきや、一方で新たな依存症患者を増やす恐れのある施設を作るとは、政府をはじめ、県も市もどうかしている」とのべ、市長の姿勢をただしました。市長は「大きな経済波及効果や雇用効果を生み出す」と繰り返すばかりでした。

学校給食問題では、県内でも最低クラス給食室へのクーラー設置について年次計画を立てるよう迫ったのにたいし教育長は「新築・増築をを行う際に併せて考える」と年次計画を拒否。給食費無償化についても市長は「現時点では考えていない」と拒否しました。

巨大太陽光発電 影響ただす

南畑幸代議員

南畑市議は、和歌山市北部の山林に二つの巨大太陽光発電が計画されるもとで「和歌山市環境と大規模な太陽光発電設備設置事業との調和に関する条例」が22日から全面施行されることに触れ、市の管理する里道の払い下げや水路の施工についてただしました。都市建設局長は「事業者へ自治会の同意書等の添付を指導、協議しており、現時点では整っていない」と答弁。

開発より懸念される野生動物による被害への対応について、市民環境局長は「条例の7条で事業者の責務として、生活環境への被害等自然環境を損なう事態が発生することのないよう十分配慮することとしており、野生生物による被害について十分配慮するよう指導していく」と答弁しました。

水道の未給水地域の問題では「一日も早く、私たちの生きているうちに」という切実な声を紹介し諸問題をただしました。企業局長は「年間の水質結果を見て、簡易な浄化装置で対応できるかを検討し、可能であれば水量調査も行っていきたい」と答弁しました。

第26回社会保障学校

7月14日(土)
午後2時開会
フラザホール4階A

「基本的人権と社会保障の再生
～憲法25条を豊かに」

講師：井上英夫氏

(金沢大学名誉教授
全国生存権裁判を支援する会代表)

和歌山県社会保障推進協議会
073-425-9355